園長通信～こころ～ №１１２

# 園長講話

2024.9.20

教育実習生が来ている。毎日、一生懸命メモをしながら実習を行っている。「園長講話」があるのは知っていた。そろそろかと思っていたら、ちゃんと実習生が来てくれた。その日に、すぐにやることにした。

話す準備はしていない。なぜか。その方がいい話ができるからである。経験上、そのことがわかっている。気がつけば、５０分もの間、いろいろな話をした。時計を見たら、ちょうど５０分だった。このへんが中学校教員である。５０分という長さが染みついている。

実習生は、小さい頃から保育士を目指してきた。ぶれたことはないそうである。いよいよ夢を実現させるときが近づいている。実習後の就職活動の話をした。就職後のことについても話した。保育所や幼稚園の先生方の悩みは何か。これは、社会人の悩みでもある。仕事に関する専門性や経験のこともあるだろう。だが、一番は、職場の人間関係ではなかろうか。実習生に教えた。他人は変えられないが、自分は変えることができる。ついでに、過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられることも伝えた。人は、他人にこうしてほしい、こうなってほしいと思いがちである。そして、他人への不満や愚痴を言いがちである。それよりも、自分が変わる努力をした方がよい。

また、２０代は、できるだけ苦労をした方がよい。苦労から逃げないことである。逃げると後から自分に跳ね返ってくる。若かったときに流さなかった汗は、老いてから涙となる。そして、３０代は、思う存分、自分の力を発揮するときである。

人生は、山あり谷ありである。必ず、山があれば、谷もある。人は、落ちたときが重要である。人間性を磨くチャンスである。谷に落ちたときに、どんなことを考え、何をするか。それによって、人としての価値が決まっていく。２０代は、3回くらい谷に落ちることを覚悟しておいた方がよい。いつでも、山にいて調子がいいことを望んだりするから、谷に向かうと落ち込むのである。最初から、谷のことを考えておけば、いよいよきたかとなる。

社会に出ると、やるべきことや目標などが出てくる、それがいくつにもなる。だが、何事３つである。できれば、一つのことに絞った方がよい。最優先にすべきこと、重点的に取り組むべき一つを決めることが大切である。そのことを意識していれば、あとのこともついてくる。これを“ハンカチの法則”という。一つに決めることができるのが、その人の能力である。

保育士にも幼稚園教諭にも、専門性と人間性が必要である。専門性は、とりあえず、本を読んだり、人の話を聞いたり、経験を積んだりすればよい。では、人間性はどうだろうか。これがむずかしい。子どもの前に立つ先生は、専門性はもちろん必要だが、人間性が重要である。これを磨くためにどんなことをすればよいのか。そのヒントとなるような話をした。

出会いが人生をつくっていく。出会いのチャンスは、誰にでも平等に公平にある。しかし、人によっては、出会いが出会いでなくなってしまう。本気で悩んだり、前に進もうとしている人の前には、なぜか人が現れる。それが、出会いである。自分の人生は自分で切り拓いていくのだが、実は、誰に出会うのか、その出会いによって、導かれるように人生がつくられていくことがある。

気づけば、人生の先輩として、大切なことを話していた。人の不満や愚痴を言っている人よりも、悩みながらも前に進もうと、自分を磨こうとしている人の方が、子どもたちによい影響を与えるのは明白である。実習生は、懸命にメモをしてくれた。記録は、いつまでも残る。こんなことなら、録音しておけばよかった。どうして、こんな話をしたのか。きっと、実習生が保育士や幼稚園の先生に向いている方だからだろう。期待や願いを込めてのことだと思う。彼女の今後が大いに楽しみである。